

咲き誇る瞬間を
陶器に写し出す

3 蒼土窯

葉や根、花を粘土に押し当て、植物のかたちと気配を写し取る「草木捺彩陶(そうもくなつさいとう)」の第一人者・前田さん。しなやかな葉を持つ日本の植物だからこそ可能な技法で、同じものは二度と生まれない。咲き誇る瞬間の「生命」を陶器に映し出すため、前田さんは植物と対話しながら、ひとつひとつ丁寧に作品を仕立てる。

SPOT DATA

住所:宇土市下網田町380
TEL:0964(27)0777
不定休
※来窯の際は、必ず電話連絡をお願いします。



草木を型取った模様があしらわれた湯呑や小皿も人氣を集めている

上皇后美智子さまが お育てのハナシノブを陶板に

阿蘇郡高森町に自生するハナシノブと上皇后美智子さまのご縁を取り持った植物研究家・佐藤武之さんが、美智子さまから送られたハナシノブの美しさを永遠に残したいと前田さんに依頼し、花を型取った陶板を制作。

まえだ かず 前田 和 さん(81)

熊本市出身。大学時代に陶芸と出会う。瀬戸市で陶芸家として活動。東京の銀座など、その時代を中心に展覧し、「今生きている人にヒットするもの」を作り続けるために模索してきた。36歳の時、熊本城に展示された「網田焼」に感銘を受け、現在の下網田町に家族で移住。蒼土窯をひらく。「網田焼」の復元にも取り組む。



展示室には、白黒の模様が特徴的な作品が並び

SPOT DATA

住所:宇土市上網田町402
TEL:090(3017)6650
不定休
※来窯の際は、必ず電話連絡をお願いします。

うめだ けんたろう 梅田 健太郎 さん(53)

愛知県瀬戸市出身。24歳から佐賀県唐津で焼き物の修行に。その後、宇土市で工房をひらく。唐津仕込みの、糞灰を釉薬に混ぜてかける乳白色の釉が特徴の「斑唐津」、鉄分の多い釉薬を使う「黒唐津」、その二つの釉薬を使い、熱で釉が自然に溶け合う模様が楽しめる「朝鮮唐津」など多種の焼き物を制作。



土や素材の
魅力を引き出す

1 梅田健太郎窯

地元で採れた土や素材の個性を見極め、梅田さんにしか生み出せない陶器をかたちにする。宇土や網田、唐津など、自ら赴き土や石を採取し、粘土や釉薬へ。冬に焚いた薪ストーブの灰までも活かし、自然の恵みを余すことなく取り込む。ゼロからつくる焼き物には、手間と時間、そしてこだわりが詰まっている。

1350℃まで上がる登り窯。これも手作り



下網田町の見晴らしの良い丘に佇む登り窯。この窯で、1350℃の温度で22時間かけて焼き上げる。段々畑だったこの場所、窯、小屋すべてが手作り。



細筆が描く
温もりの器

4 工房青彌(せいや)

天草陶石をもとに生まれる、澄んだ白さが際立つ器や、深みのある青が美しい顔料「呉須(ごす)」を用いた絵付けが魅力。細筆で丁寧に描かれた模様には、手仕事ならではの温もりが宿る。持ち手がしっかりしたカップや、花が自然と収まる花瓶など、使う人の目線に寄り添った、暮らしを彩る器づくりを大切にしている。



陶器のアクセサリが人気！



繊細な絵付けと手仕事の温もりが宿る、陶のアクセサリ。手仕事ならではの質感が、身につけるたびにやさしく心を彩る。



展示室には、細筆で描かれる模様が美しい花瓶やお皿が並び



SPOT DATA

住所:宇土市上網田町311
TEL:0964(27)1403
不定休
※来窯の際は、必ず電話連絡をお願いします。

うめだ さちこ 梅田 幸子 さん(78)

玉名市出身。35歳から陶芸を初め、自宅に工房青彌をひらく。モットーは、「他には無いものを作る」。工房の周りには、四季折々の花が咲く素敵な庭があり、陶器とともに花も楽しめる。



自然をモチーフに
手びねりで

2 陶工房あねもね

日々の暮らしで目にした草露や雪のかたちを手びねりで紡ぎ、自然のやさしさを映す作品を生み出す。草露や雪のかたちに心をとめ、手びねりでそっと紡ぎ出す作品は、自然のやさしさを静かに映す。暮らしの中の草露や雪に着想を得て、手びねりで紡ぐ作品は、自然のやさしさをそっと映し出す。

SPOT DATA

住所:宇土市岩古曾町2740-5
TEL:090(2710)5402
不定休
※来窯の際は、必ず電話連絡をお願いします。

しもむら まさこ 下村 雅子 さん(63)

熊本市出身。友人から誘われ、趣味として陶芸を始める。約20年前に宇土市に移住し、工房をひらく。週に3回焼き物教室を実施。焼き物体験も受け付けている。ネコ好きで、毎年1種類はネコをモチーフにした焼き物を制作。

ネコをモチーフにした小皿 ▶



作っているとき無心になれるのが陶芸の魅力と話す下村さん

御興来海岸をイメージした模様をあしらひ



宇土に来て初めて御興来海岸の夕陽を見に行き、感動した思い出を陶器で表現。夕陽のような色合いと砂の模様、波の動きをイメージして制作。

特集

お気に入りの、見つけに行こう！
宇土の焼き物スポット

宇土市には、4人の陶芸家がそれぞれの「窯元」を構えています。色も形も、手ざわりも、どれひとつとして同じものはなく、見て触れて、選ぶ楽しさがそこにあります。この特集では、そんな自分のお気に入りの宇土の焼き物スポットをご紹介します。

Let's 陶芸体験！



広報うとを編集しているまちづくり推進課の松田(左)と鳥巢(右)。体験を案内してくださったのは、「陶工房あねもね」の下村さん(中央)。住宅街に佇むナチュラルな工房で、土と向き合うひとときを楽しみました。

土をこね、ろくろを回すー
気づけば無心でもくもくと作業に没頭。自分だけの焼き物が少しずつたちになる時間は、静かで贅沢なひととき。皆さんも、自分色の器づくり、体験してみませんか。

宇土の推し窯元で作るわたし色の焼き物

お気に入りの出会える、年に1度のチャンス！？ 巡ってみよう！宇土の窯元

宇土市を含む宇城地区の10窯元が参加する「第19回 宇城の窯元めぐり」が開催されます。各窯元ではこのイベントに向けて個性豊かな作品を製作中。宇土市からは3つの窯元と「網田焼きの里資料館」が参加。お気に入りの“推し焼き物”に出会える、年に一度の特別な機会です。

宇城の窯元めぐり

開催

2025 10.11sat
— 19sun

各窯元の逸品が当たる！ スタンプラリー

窯元や資料館に設置されたスタンプを4つ集めて、応募用紙に希望の窯元や住所など、必要事項を記入し応募してください。どの窯元でも提出可能です。抽選で素敵な景品が当たります！応募用紙は、期間中は各窯元や宇土市役所玄関に設置してあります。



おうだやき さとしりょうかん 網田焼の里資料館

網田焼の陶工の監督を務めていた中園家の居宅が修復・整備されて公開されており、併設された土蔵づくりの展示室には、江戸時代からの網田焼の作品をはじめ、網田焼に関する様々な資料が展示されています。

住所：宇土市上網田町787-1
時間：午前9時～午後4時30分



☎0964(27) 1627



※今回の宇城の窯元めぐりに、工房青彌(せいや)は参加しません。

my Pottery
1



まずは、つくりたい器のイメージを紙に描くところからスタート。サイズやかたち、模様の配置などを、陶工房あねもねの下村さんと相談しながら、イメージを整えていきます。

my Pottery
3



かたちが整ったら、希望の色を下村さんに伝えてこの日の作業は終了。釉薬の調合や焼成は、工房の下村さんが丁寧に仕上げてくれます。約1か月後、世界にひとつだけの器が焼き上がり、手元に届くのを待つ時間も楽しみのひとつです。

my Pottery
2



泥触りの楽しい！



作りたい器のイメージが決まったら、いよいよ土に触れる時間。こねて、丸めて、伸ばして一手のひらで少しずつかたちを整えていきます。難しい工程も、下村さんが熟練度に合わせてやさしくサポートしてくれるので安心。

真剣



完成☆



チリン

鳥巢作
「てるてる風鈴」

松田作
「福耳お地藏様」

陶工房
あねもね
陶芸体験

場所 宇土市岩古曽町2740-5
体験内容 手びねりによる陶芸体験
体験時間 約2時間
体験料 2,500円～/1人
(材料費・焼成代込み)

対象 大人・お子さんも参加OK
定員 最大4名まで
(工房スペースの都合上)
完成した作品は約1か月後に
焼き上がり、お渡し



詳しくはQRコード
からご確認ください。